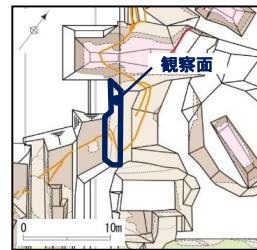
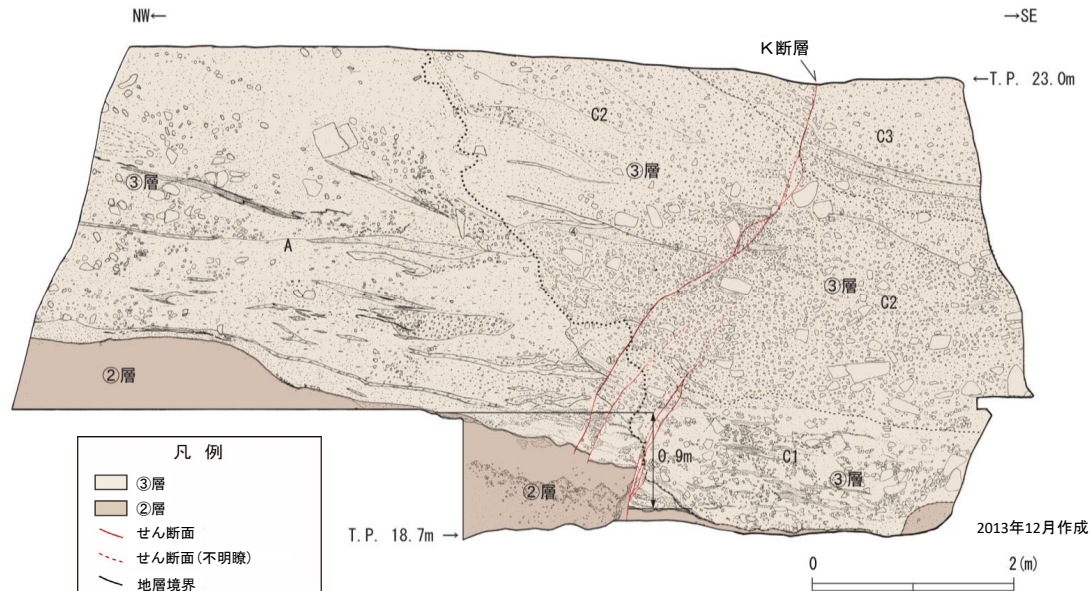
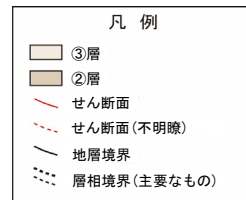


K断層の性状(擁壁撤去法面)

- ②層：礫混じりシルト質砂：褐灰色～浅黄橙色 (7.5YR6/1～10YR8/4)
 基質はシルト、細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西側ほど硬質となる。
 ②層上限面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側でほぼ水平を示す。
- ③層
 A層：礫・シルト混じり砂：浅橙色～浅黄橙色 (5YR8/3～10YR8/3)
 礫は径20mm以下の風化を受けた亜円～亜角礫主体である。
 基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
- C1層：砂礫：明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6～7.5YR7/3)
 礫率30～60%であり、レンズ状に砂層を挟む。
 礫混じり砂質シルト：淡赤橙色～灰白色 (2.5YR7/3～7.5YR8/1)
 基質は細～中粒砂であり、淘汰はやや良い。
 礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
- C2層：砂礫：にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3～10YR6/6)
 礫率30～60%であり、淘汰はきわめて悪い。
 礫は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
 基質は中～粗粒砂であり、レンズ状に中～粗粒砂の砂層を含む。
- C3層：礫質砂：にぶい橙色～浅黄橙色 (5YR6/4～7.5YR8/3)
 礫は径100mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
 基質は中～粗粒砂で、淘汰はやや悪い。

- ① f: N26° E57° W
 ② f: N19° E48° W
 ③ b: N66° E14° S
 ④ b: N6° E12° E
 f: せん断面
 b: 層理面



調査位置図

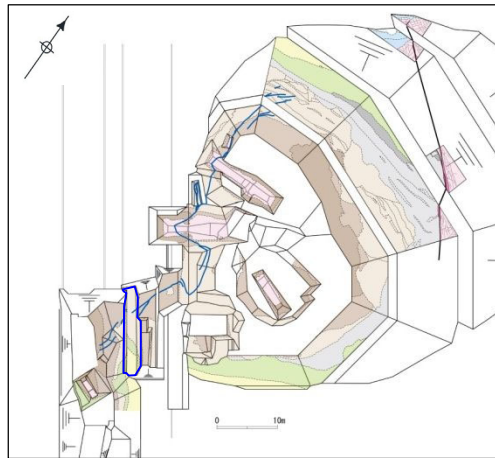


2013年12月撮影

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて約0.9mである。

K断層の性状(原電道路ピット/ふげん道路ピット)

- 原電道路ピット東向き法面部では、K断層は②層及びC層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面部と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。

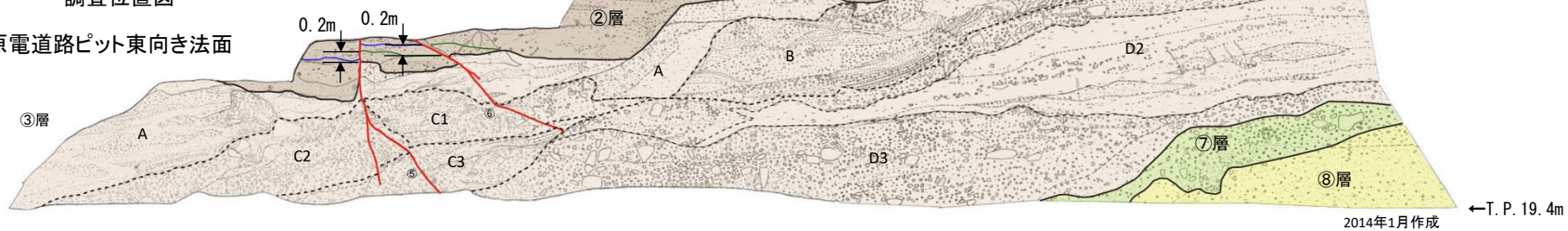


調査位置図

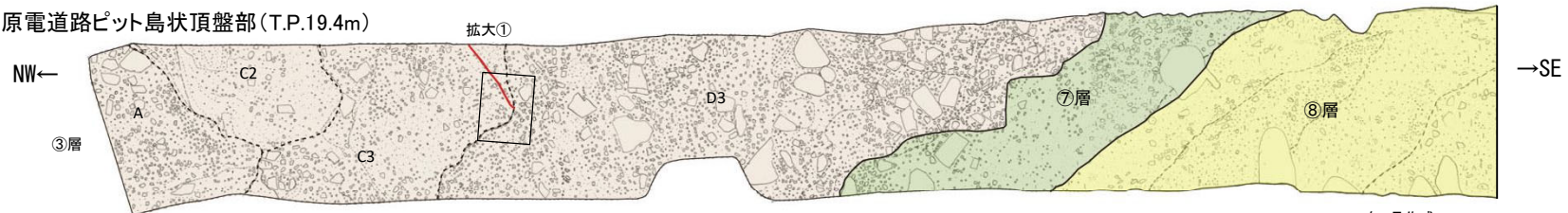
- ⑧層: 細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色 (5Y6/6) 礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。
- ⑦層: 礫混じり砂質シルト~砂礫からなる。明赤褐色~橙色 (5YR5/6~7.5YR7/6) 礫率7~40%程度で径3~40cm程度の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細~中粒砂からなる。下部ほど礫の含有率が多い。
- ③層 (C, D3): 砂礫及びシルト混じり細粒砂を主体とする。橙色~明褐色 (7.5YR6/6~7.5YR5/6) 礫率15~40%で径1~10cm程度 (最大径40cm) の角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- (A, B): 砂礫を主体とする。浅黄色 (2.5Y7/3) 礫率20%程度で径1~7cm程度 (最大径25cm) の垂角~垂円礫からなる。基質は、シルト混じり細粒砂からなる。
- ②層: 細礫・砂混じりシルトを主体とする。灰白色 (2.5Y7/1) 礫率3~5%で径5cm以下の角~垂角礫を含む。基質は、シルト混じり細粒砂からなり、砂層をレンズ状に挟む。

- ⑤ f: N9° E74° W
- ⑥ f: N5° E64° W
- ⑦ f: N25° E70° E
- f: せん断面

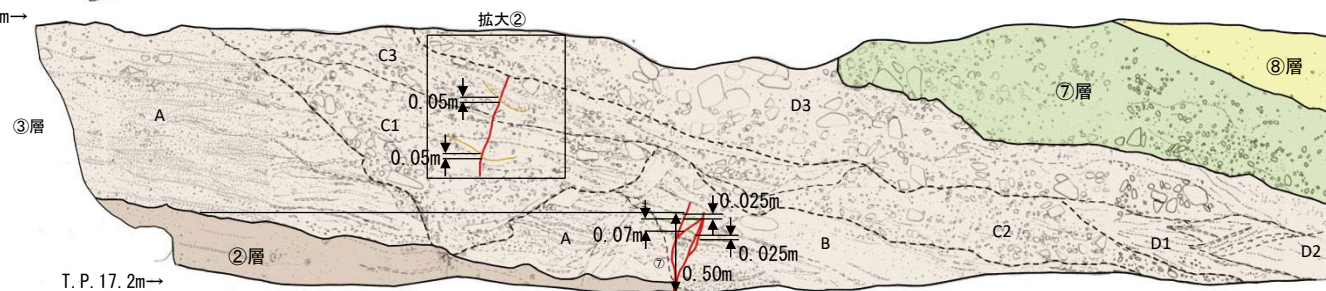
原電道路ピット東向き法面



原電道路ピット島状頂盤部 (T.P.19.4m)



T.P. 19.4m→



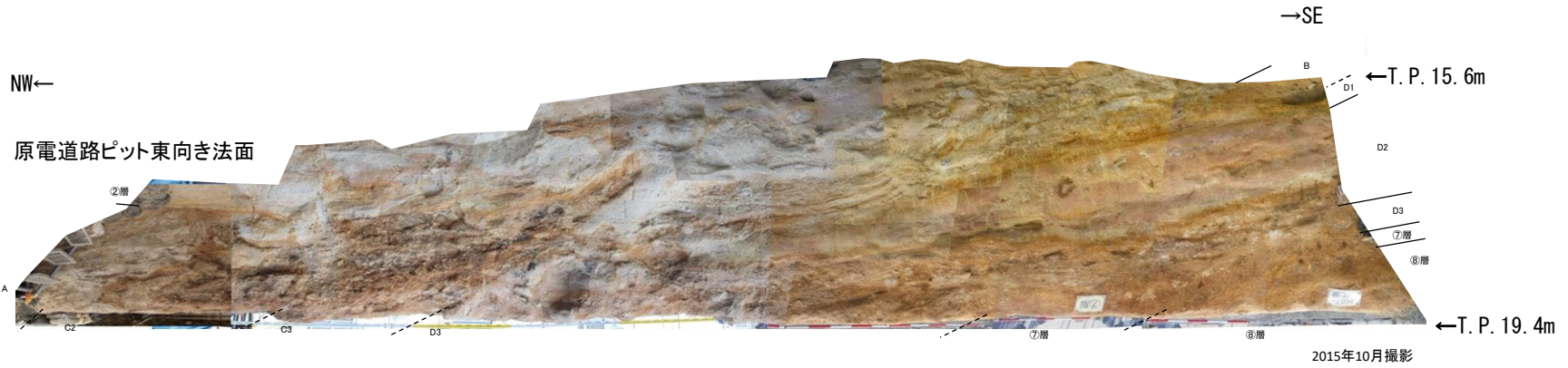
ふげん道路ピット東法面(上段)

2015年7月作成

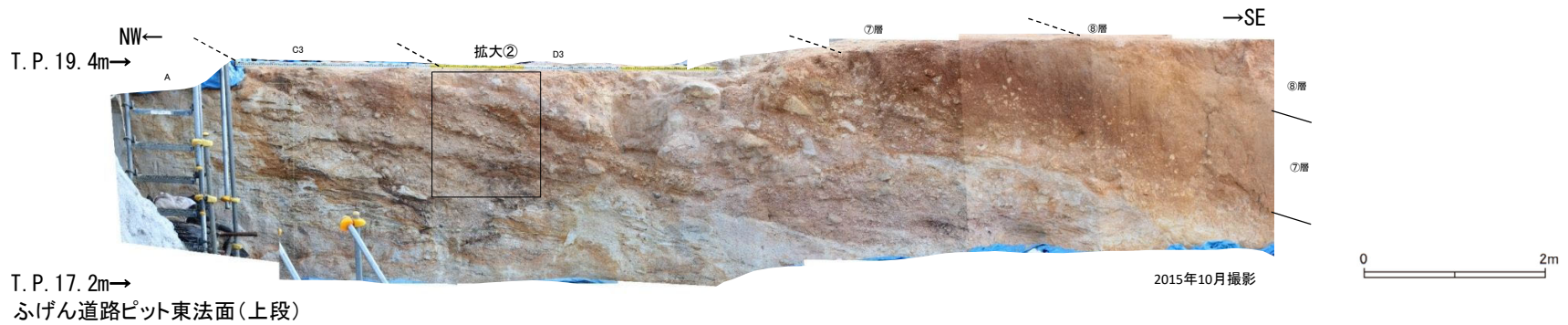
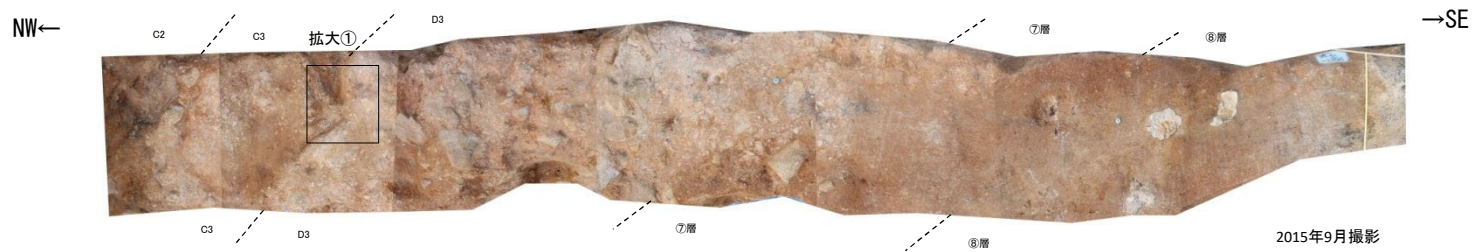
- 凡例
- ⑧層
 - ⑦層
 - ③層
 - ②層
 - せん断面
 - 地層境界
 - 層相境界(主要なもの)



K断層の性状(原電道路ピット/ふげん道路ピット)

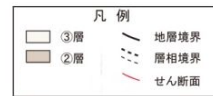


原電道路ピット島状頂盤部(T.P.19.4m)



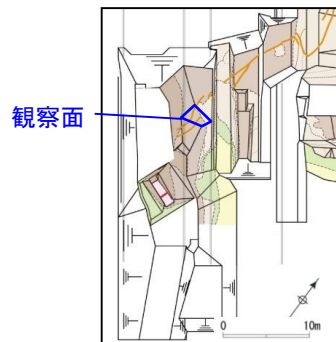
T.P. 17.2m→
ふげん道路ピット東法面(上段)

K断層の性状(ふげん道路ピット)



- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① f : N29° W75° W | ⑥ b : N75° W39° N |
| ② f : N25° E76° W | ⑦ b : N30° W26° E |
| ③ f : N14° W62° W | ⑧ b : N57° W9° W |
| ④ f : N35° E75° W | ⑨ b : N77° E2° S |
| ⑤ f : N1° W70° W | ⑩ b : N47° E21° SE |
| f : せん断面 | ⑪ b : N5° W 10° W |
| b : 層理面 | |

K断層は数条に分岐しており、②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。

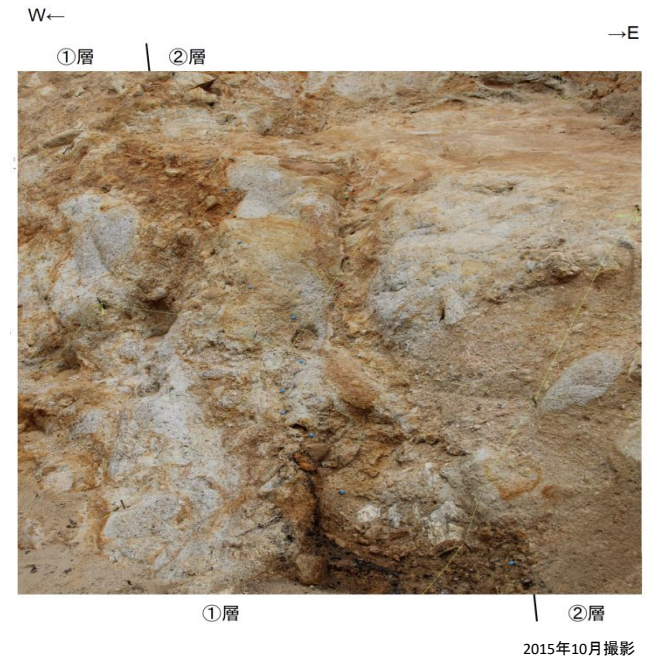
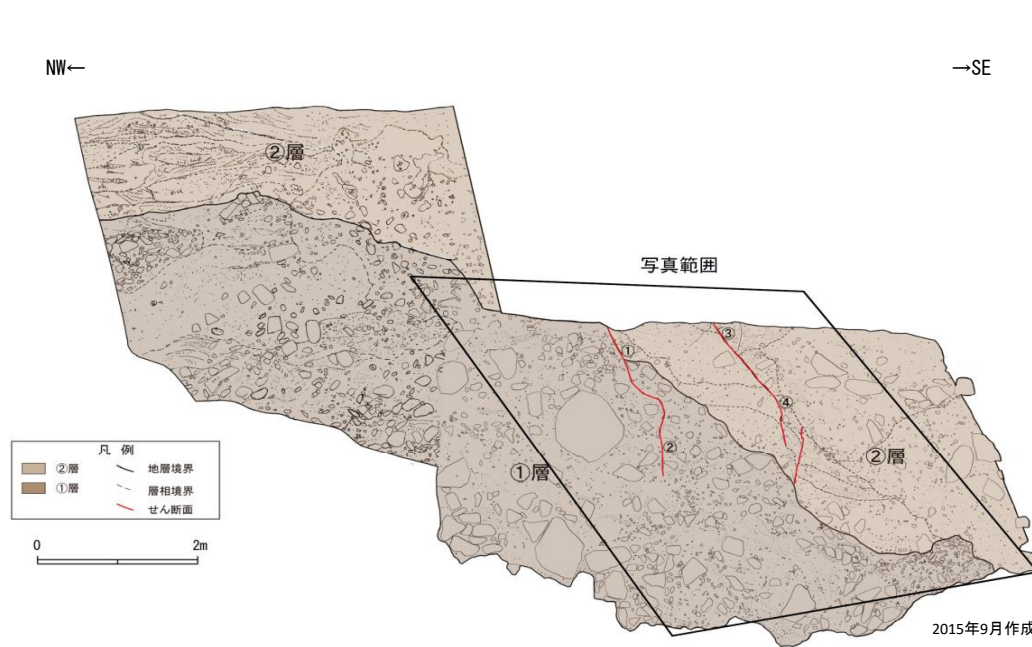


調査位置図

- ③層：砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色 (10YR7/4～25Y6/11)
礫は径20cm以下の角～垂角礫主体である。礫率30～50%
基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。
礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、
径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/12～2.5Y7/2)
細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

K断層の性状(ふげん道路ピット)

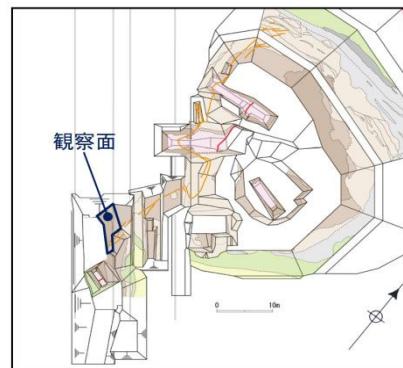
K断層の南方への連続性を追跡、確認した結果、K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。



②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/12～2.5Y7/2)
 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)
 シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

①層：砂礫 にぶい赤褐色 (5YR4/3)
 礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30～60%であり、淘汰は悪い。
 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

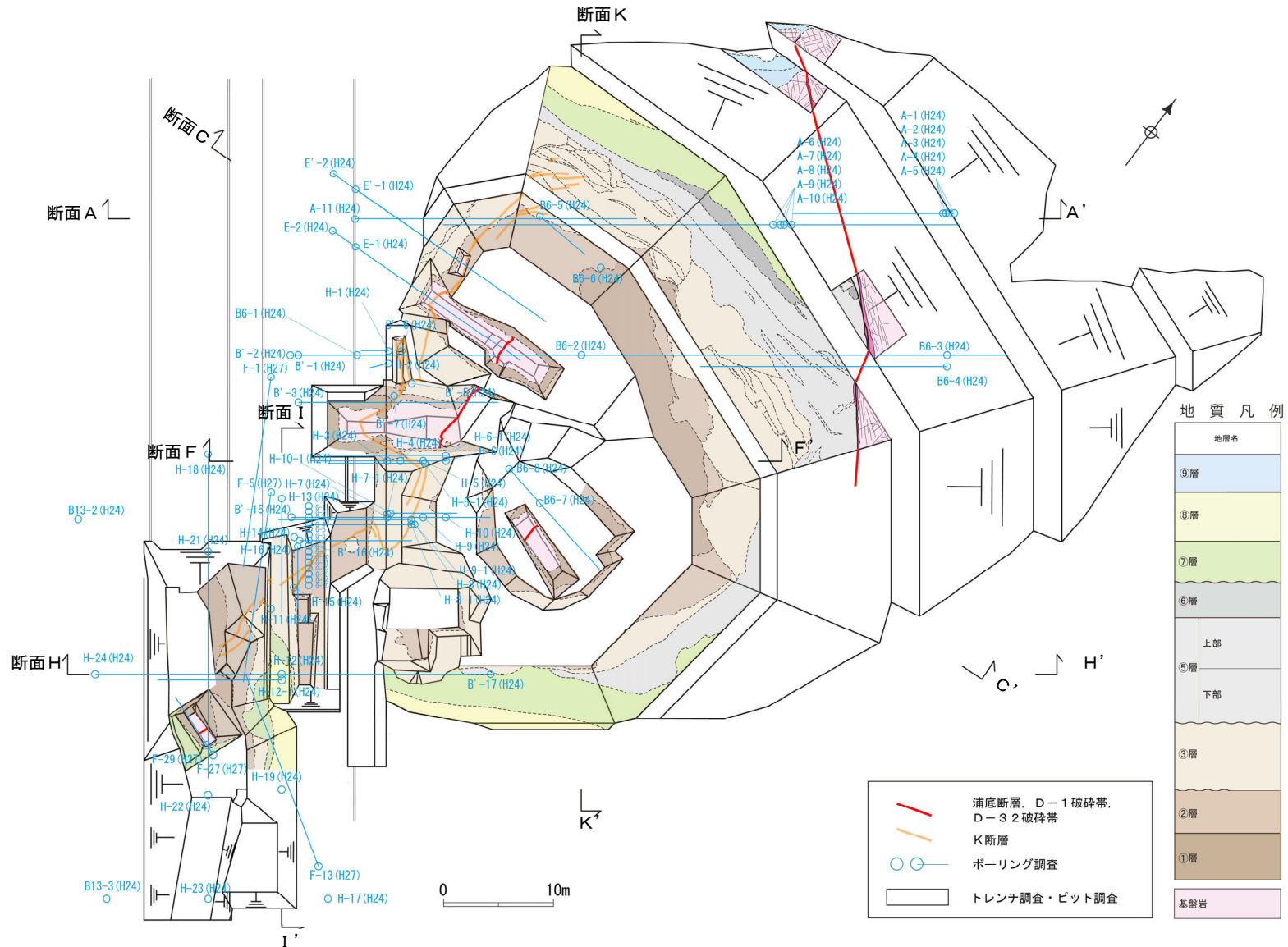
- ① f : N31° W62° W
- ② f : N1° W58° W
- ③ f : N5° W67° W
- ④ f : N1° E47° W
- f : せん断面



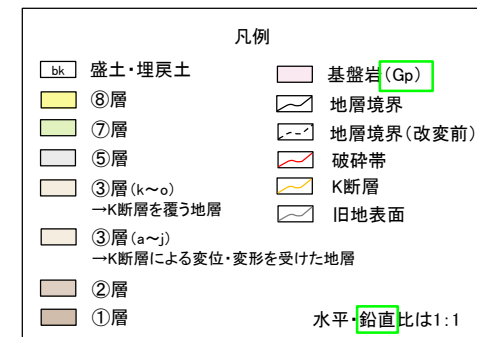
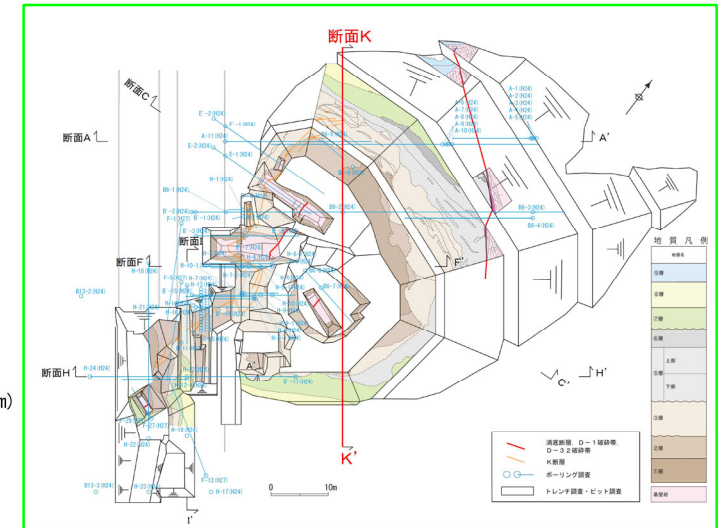
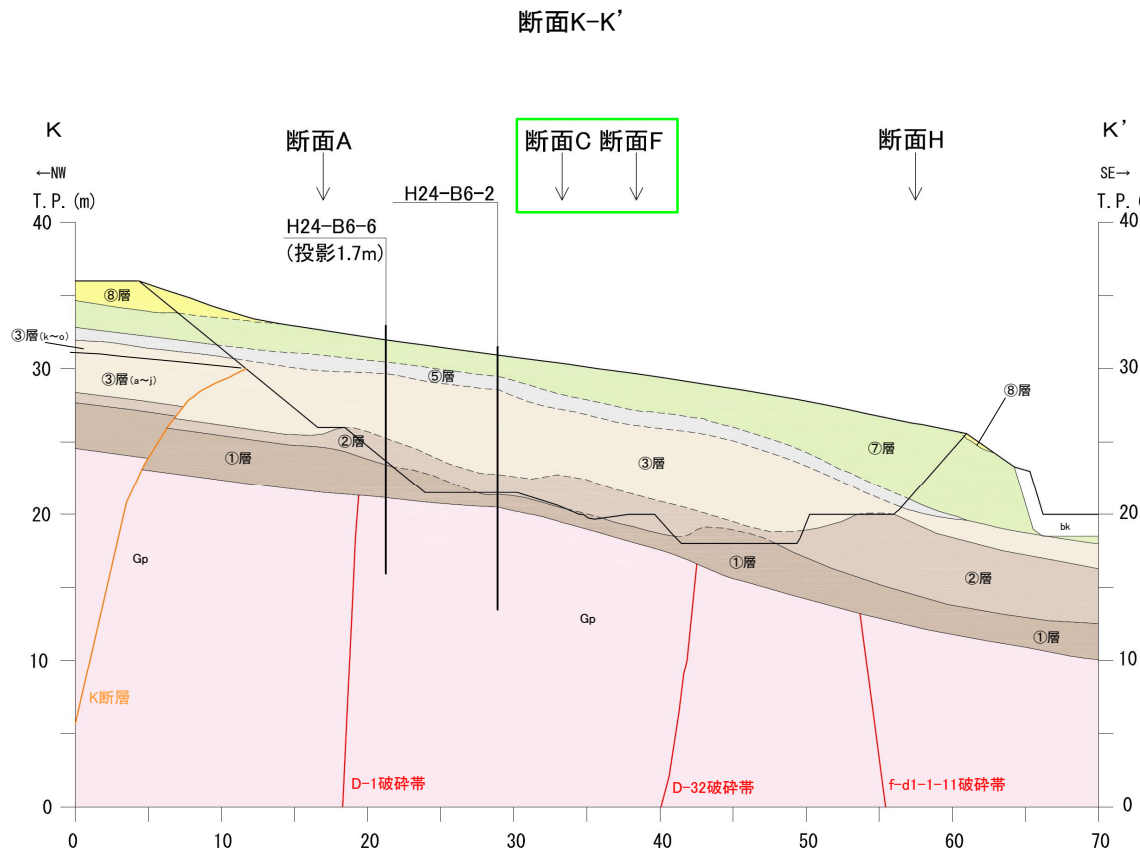
調査位置図

D-1トレンチ断面図(断面位置図)

- D-1トレンチにおけるK断層の分布を地質断面図に示した。
- D-1トレンチ内においては、K断層は北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において、連続して認められる(断面K、断面A、断面C、断面F及び断面I)。

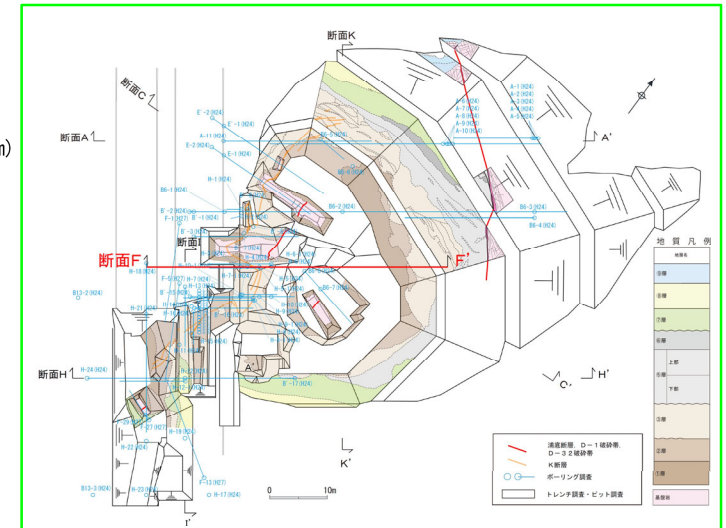
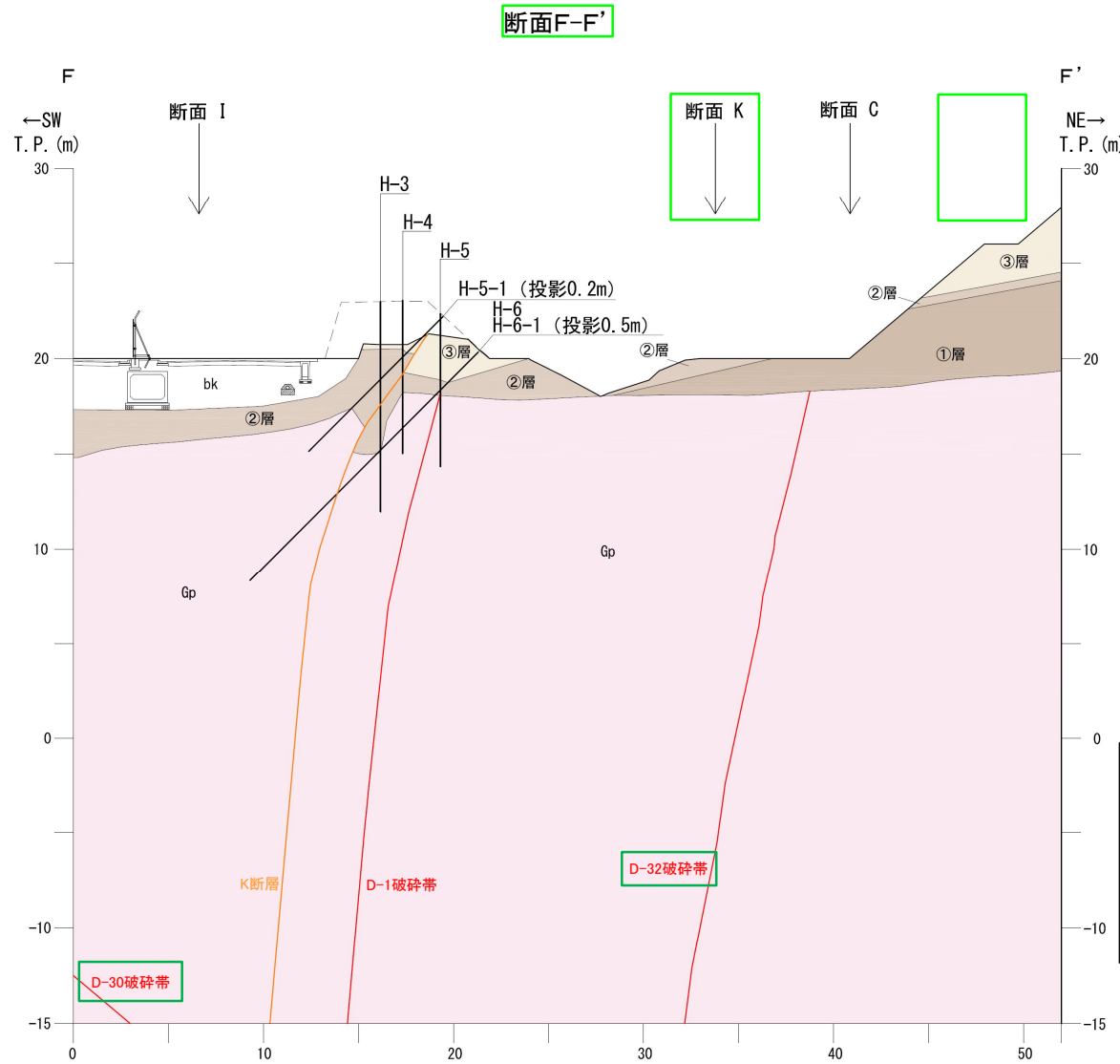


D-1トレンチ断面図(K-K')



K断層の連続性評価について

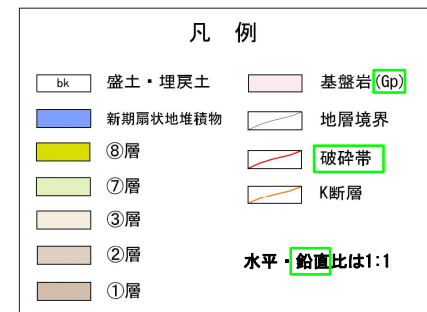
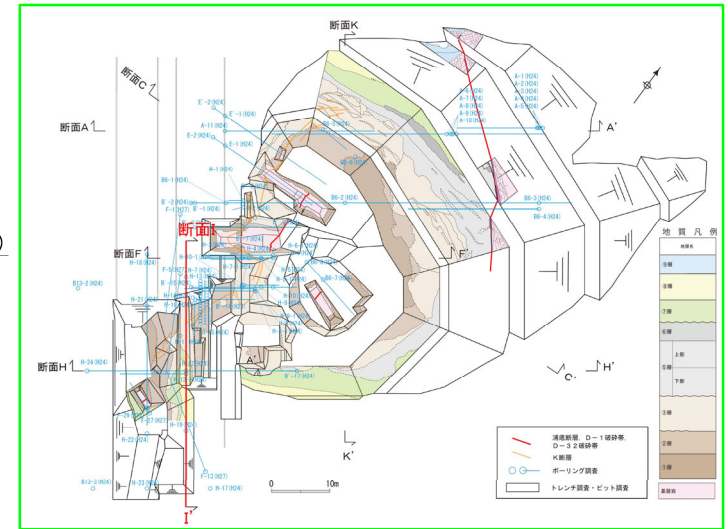
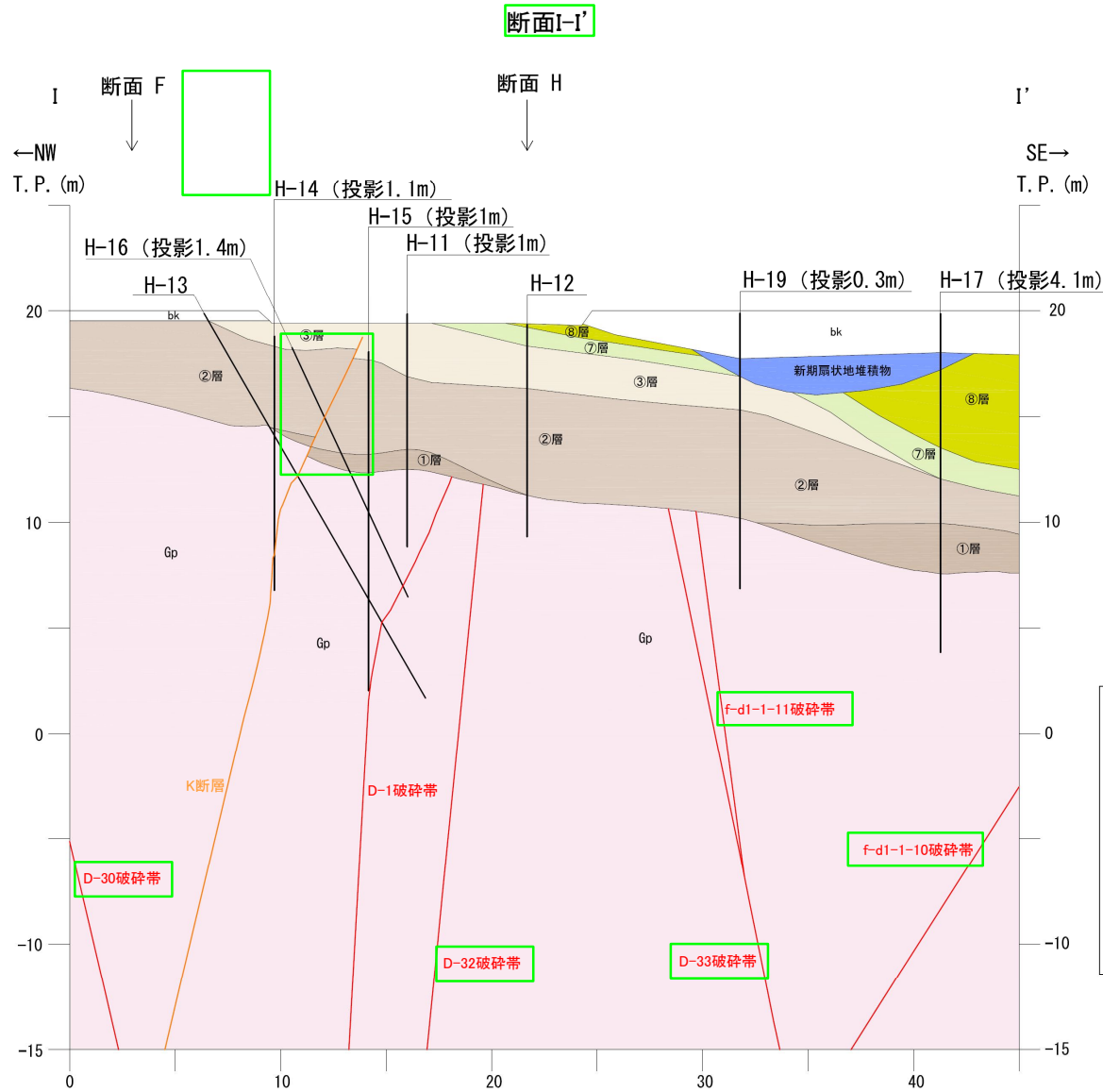
D-1トレンチ断面図(F-F')



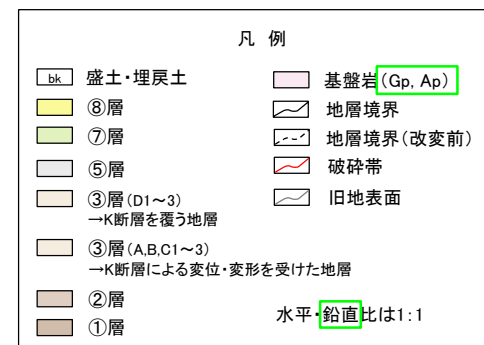
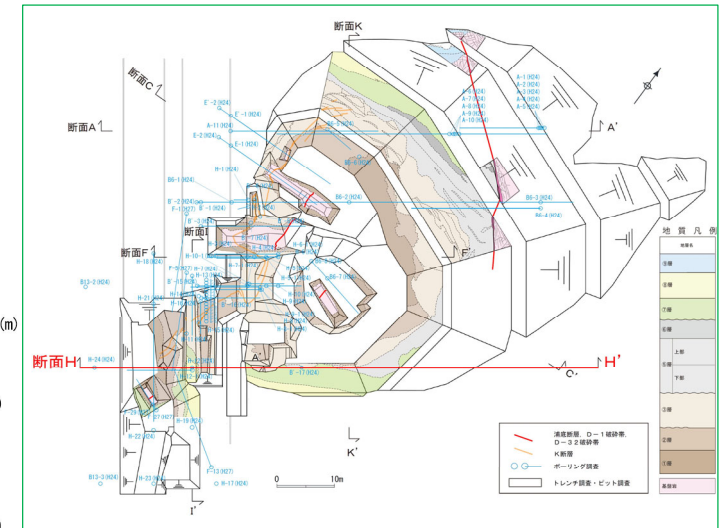
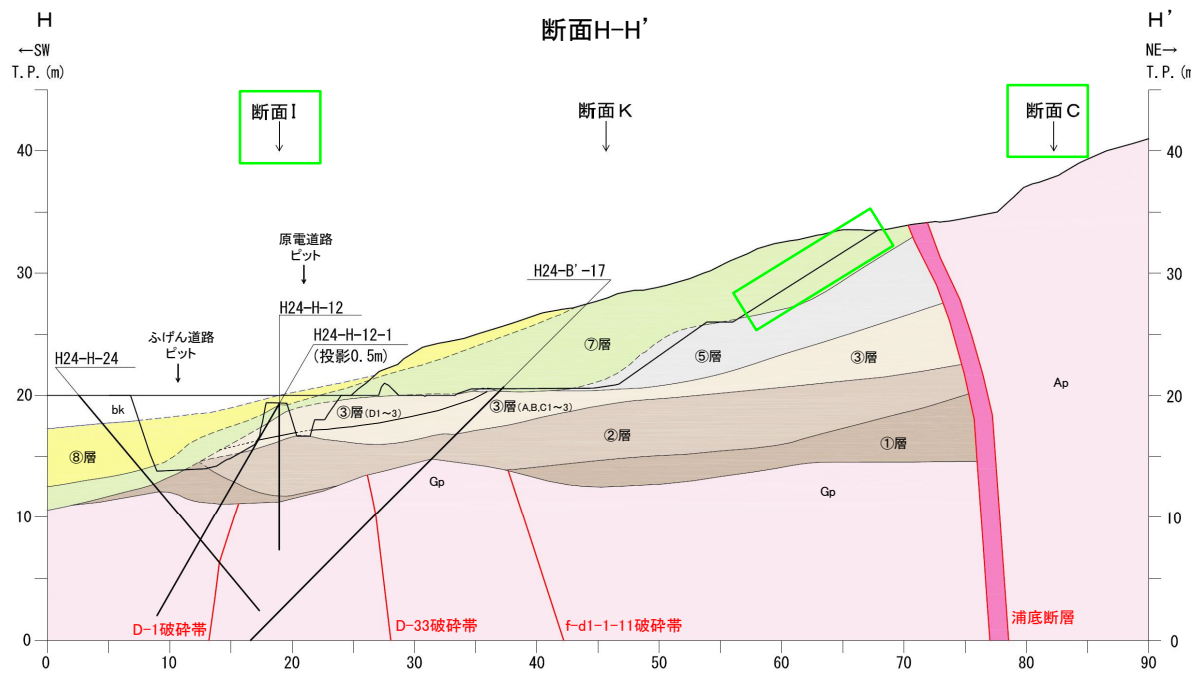
凡例

bk	盛土・埋戻土	Gp	基盤岩
③層		地層境界	
②層		破砕帯	
①層		K断層	
水平・鉛直比は1:1			

K断層の連続性評価について
D-1トレンチ断面図(I-I')

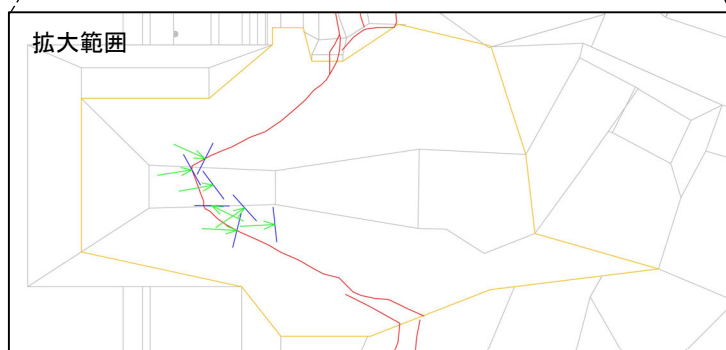
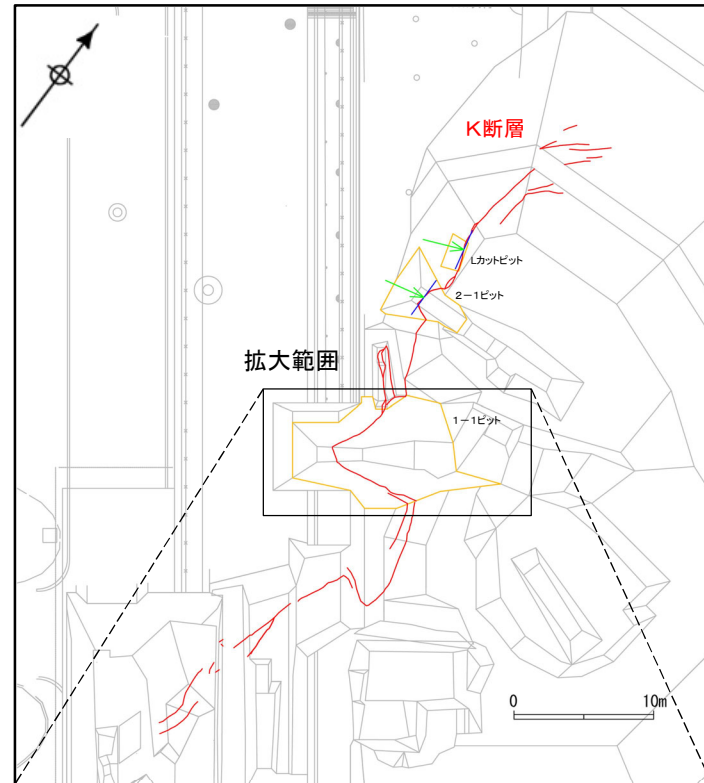


D-1トレンチ断面図(H-H')

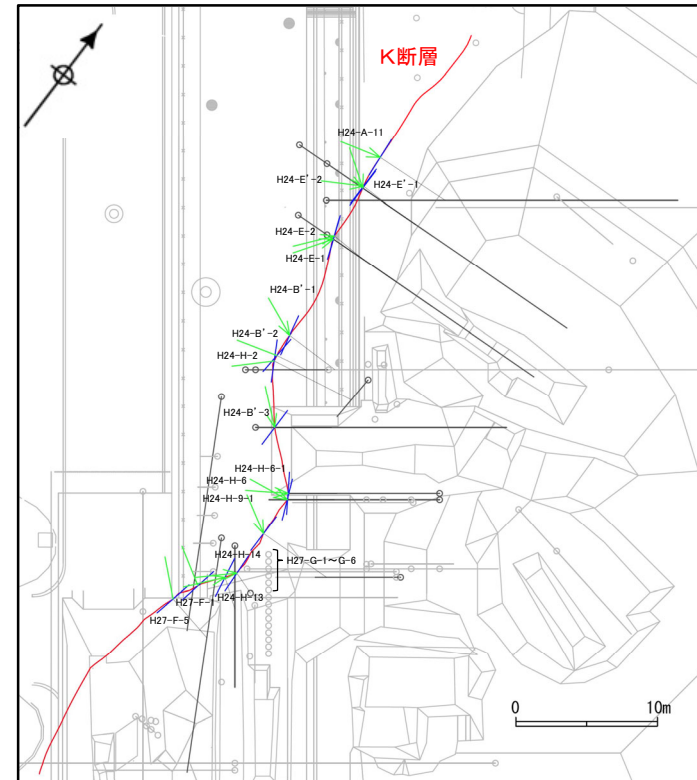


K断層の性状

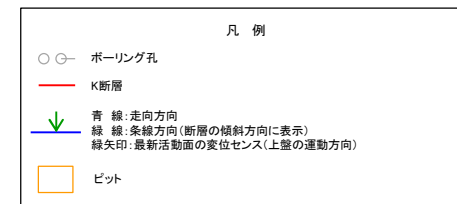
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は, 1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが, 大局的にはN-S走向, 高角度西傾斜, 最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)



K断層の性状

- K断層の基盤岩における確認箇所¹の性状を下記に示す。
- K断層はN-S走向，西傾斜，断層ガウジを伴う逆断層センス卓越（高角度条線）の特徴を有する破砕帯である。次頁以降に薄片における断層ガウジの特徴を例示する。

K断層の基盤岩における性状一覧

確認箇所	走向	傾斜	断層ガウジ・断層角礫の有無	条線	変位センス N：正断層 RL：右横ずれ R：逆断層 LL：左横ずれ
H24-A-11	N5W	89W	有	80R	R
H24-E'-2	NS	87W	有	60R	R,RL
H24-E'-1	NS	66W	有	55L	R,LL
Lカットピット	N13W	76W	有	80R	R
H24-E-2	N21W	60W	有	60R	R,RL
H24-E-1	N21W	71W	有	55R	R,RL
2-1ピット	N1W	69W	有	78R	R
H24-B'-1	N12W	89W	有	55L	R,LL
H24-B'-2	N4E	73W	有	70R ※1	- ※1
H24-H-2	N29W	66W	有	75R	-
H24-B'-3	NS	84W	有	50L	R,LL
1-1ピット北面	N10W	60W	有	86R	R ※2
1-1ピット底盤1	N66W	76S	有	70L	R
1-1ピット底盤2	N54E	67E	有	25R	R,RL ※2
1-1ピット底盤3	N74W	68W	有	63L	R,LL ※2
1-1ピット南面1	N23W	69W	有	79R	R ※2
1-1ピット南面2	N43W	80W	有	87L	R ※2
1-1ピット南面3	N79W	52W	有	82L	R ※2
H24-H-6-1	N33W	38W	有	90	R
H24-H-6	N23W	52W	有	75L	R
H24-H-9-1	NS	86W	有	60L	R,LL
H27-G-1	-	-	有	-	-
H27-G-2	-	-	有	-	-
H27-G-3	-	-	有	-	-
H27-G-4	-	-	有	-	-
H27-G-5	-	-	有	-	-
H27-G-6	-	-	有	-	-
H24-H-14	N3W	55W	有	50R	R,RL
H24-H-13	N10W	72W	有	50R	R,RL
H27-F-1	N11E	76W	有	70L	-
H27-F-5	N12E	81W	有	60L	-

- ※1：第833回審査会合までに条線の追加観察を行い、データを見直した箇所
- ※2：ピットでの地質分布と条線の関係から変位センスを決定した箇所

：薄片観察による断層岩区分

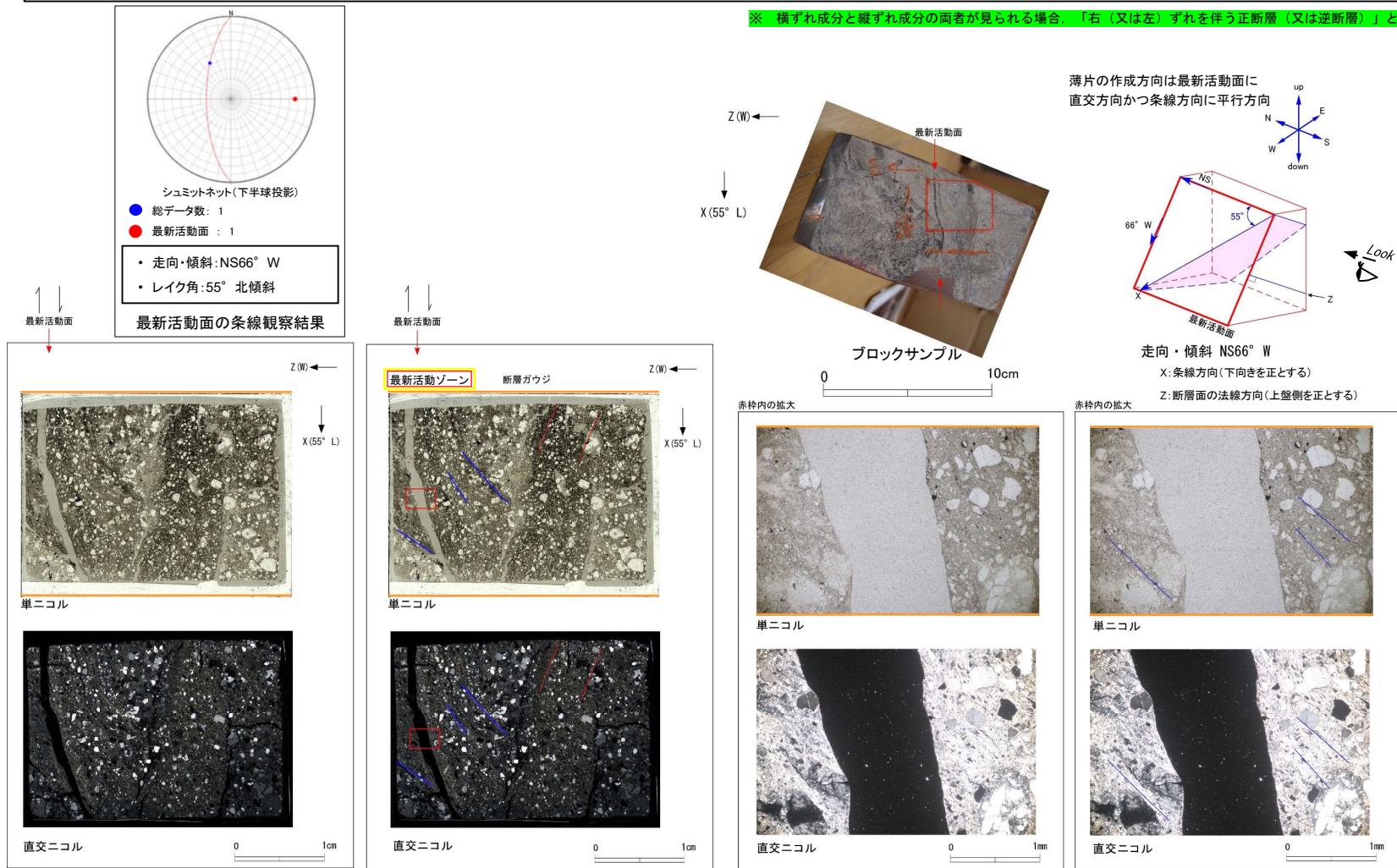
-：データが得られていないもの。

K断層の連続性評価について K断層における断層ガウジの特徴の例示

H24-E'-1 深度10.31~14.05m K断層 (1/3)

- ・H24-E'-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.72m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

※ 横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合、「右(又は左)ずれを伴う正断層(又は逆断層)」と記載している。(以下、同様)



K断層の連続性評価について

K断層における断層ガウジの特徴の例示

H24-E'-1 深度10.31~14.05m K断層 (2/3)

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2, 3)
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。(図3)

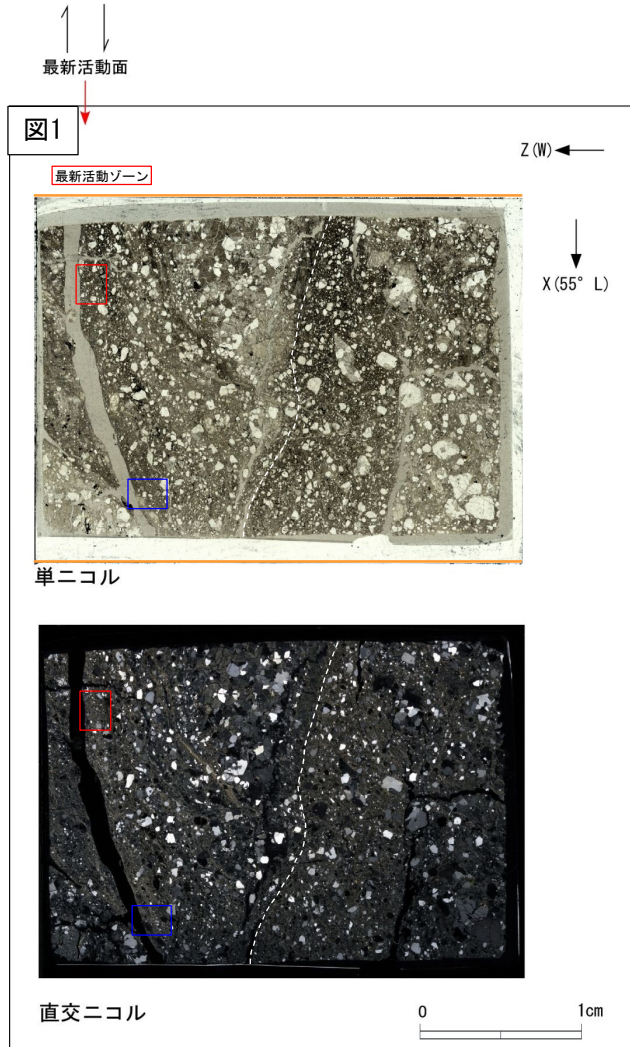
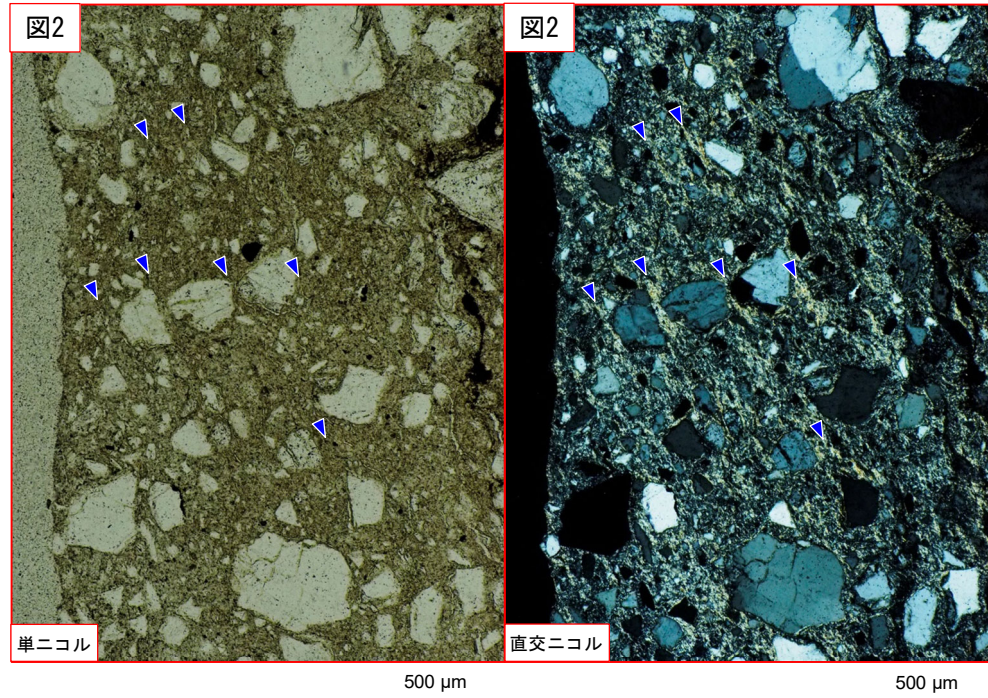
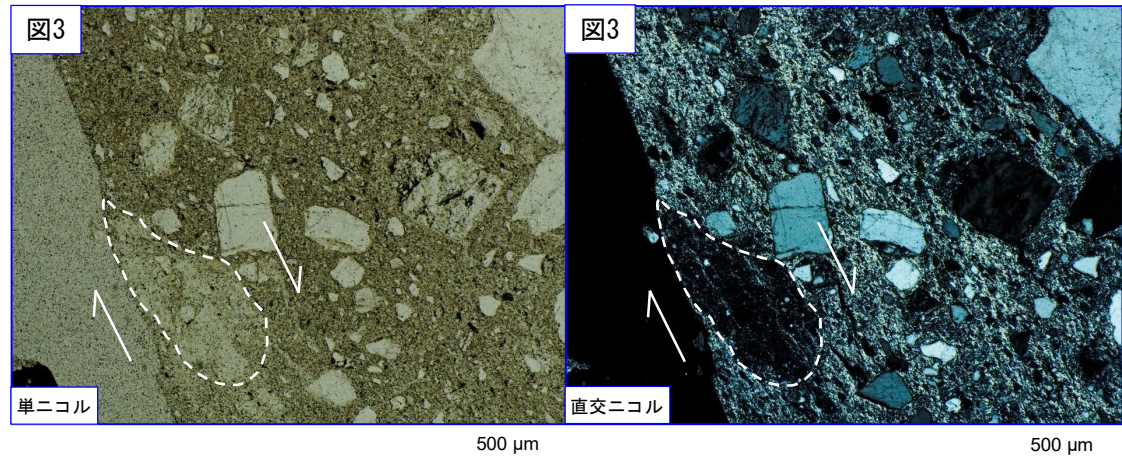


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



青矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



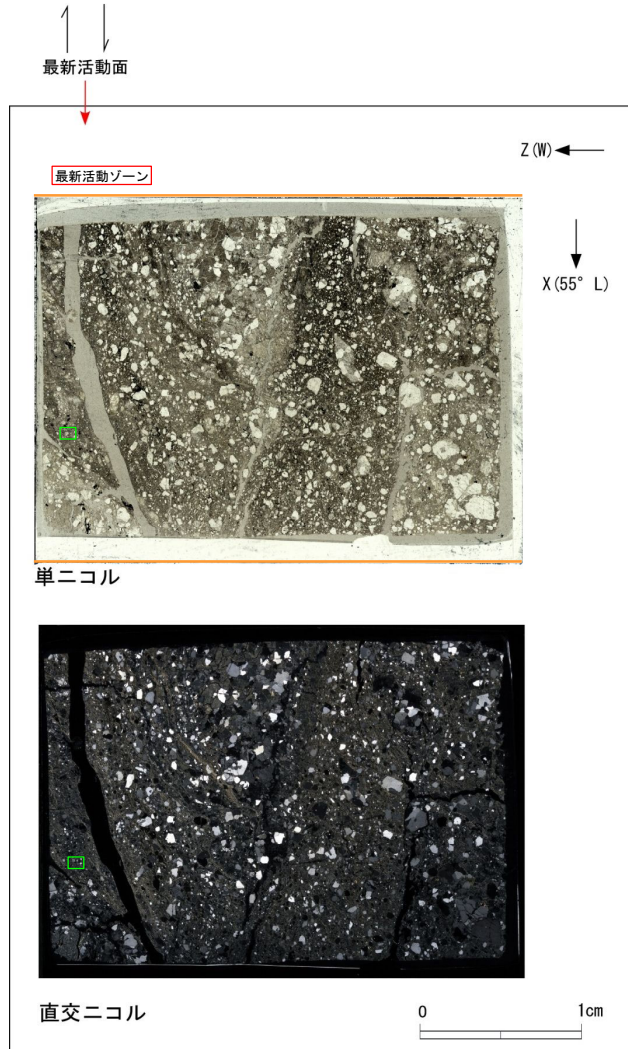
破線はレンズ状に引き延ばされた岩片を示す。白矢印はせん断方向を示す。

K断層の連続性評価について

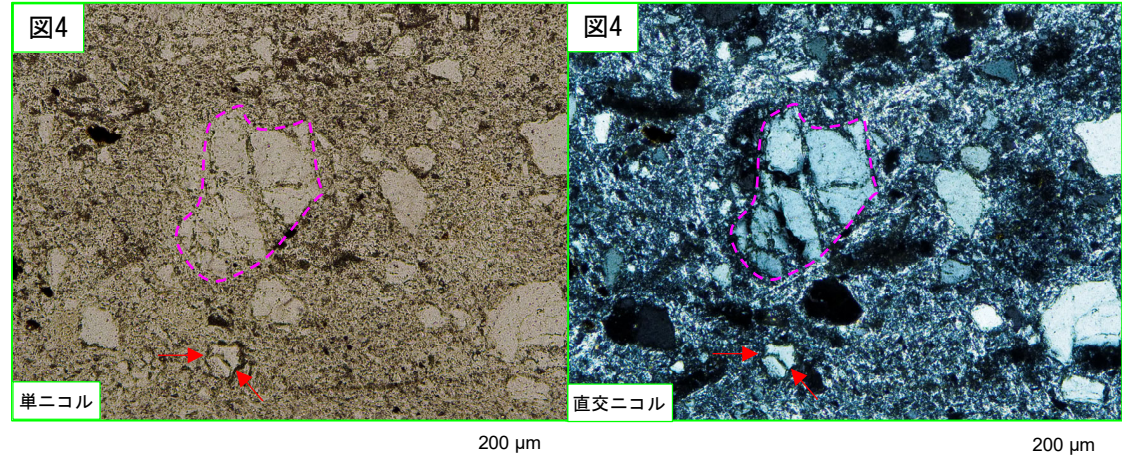
K断層における断層ガウジの特徴の例示

H24-E'-1 深度10.31~14.05m K断層(3/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図4)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



凡例
— 断層ガウジ
— カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

K断層の連続性評価について

K断層における断層ガウジの特徴の例示

D-1トレンチ1-1ピット K断層(2/3)

- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)

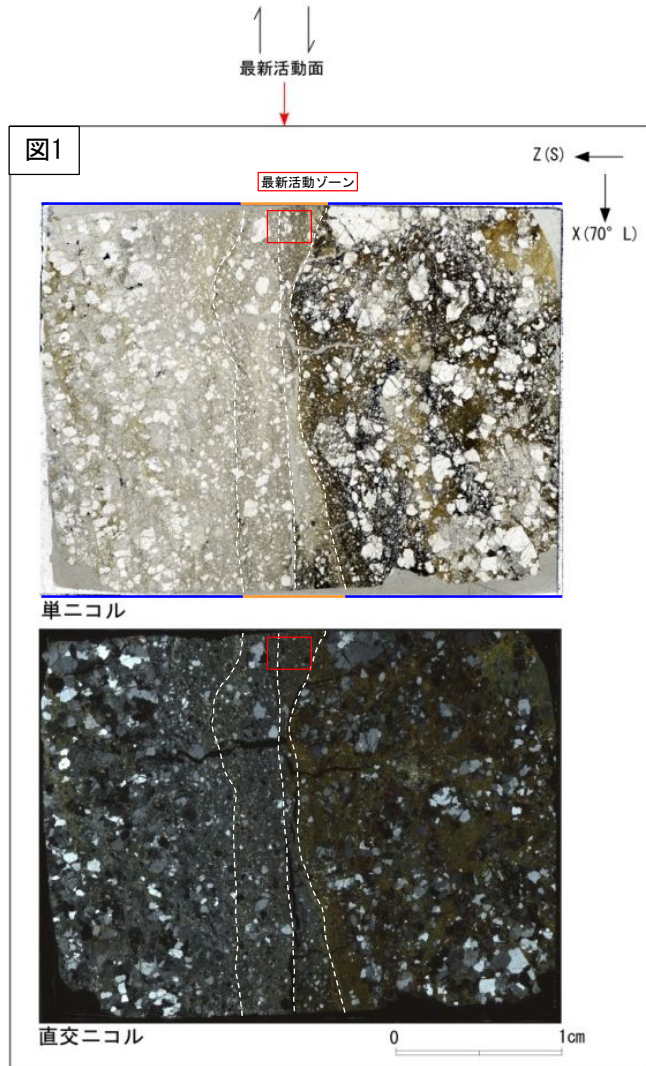
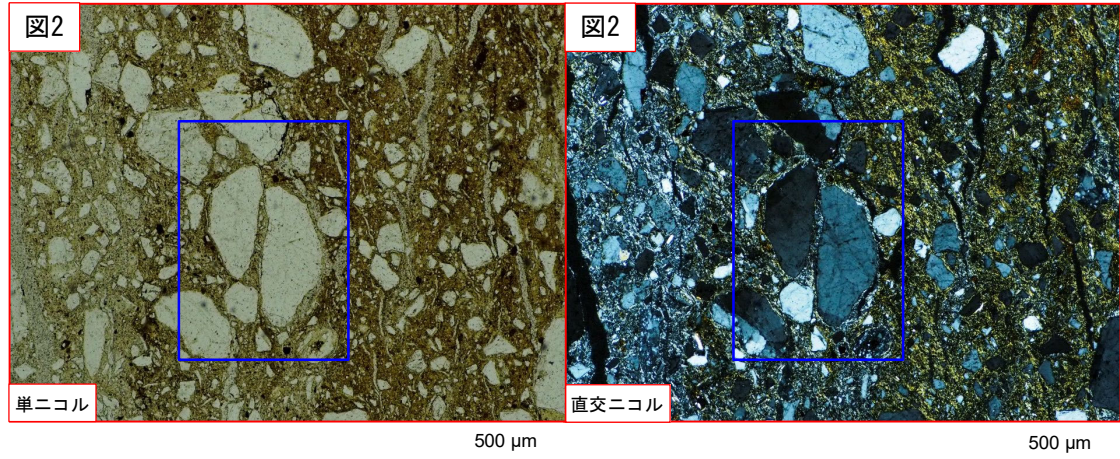


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト



拡大

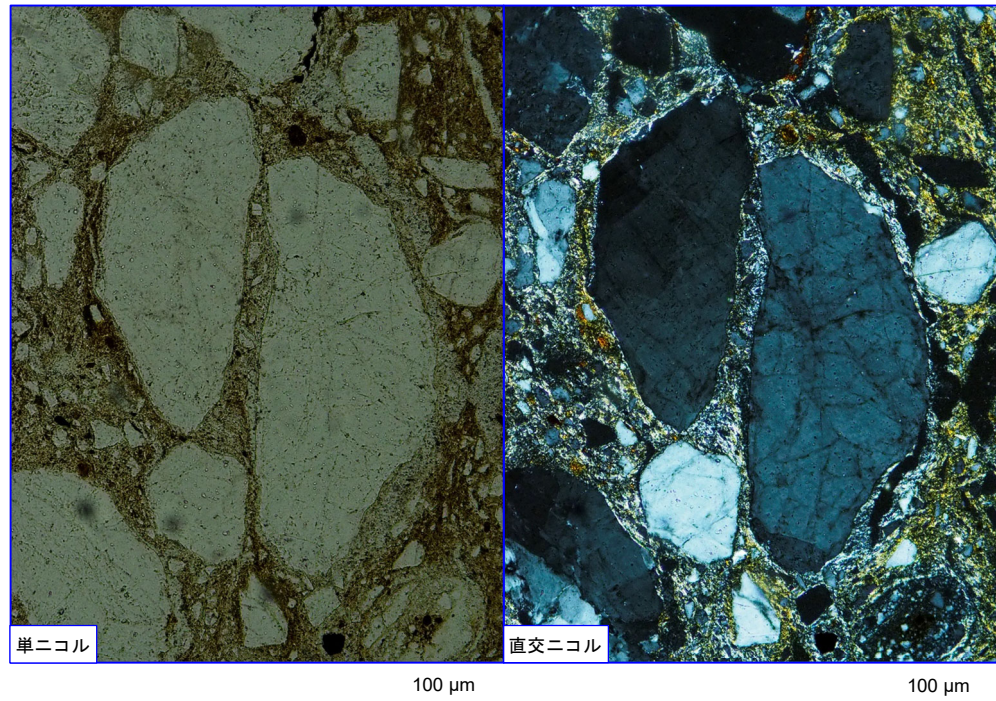


図2では、周囲に白色の断層ガウジを伴う岩片が、黄色の断層ガウジに取り込まれている様子も見られる。

K断層の連続性評価について

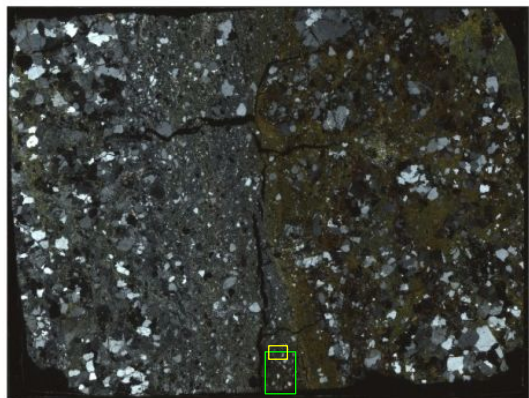
K断層における断層ガウジの特徴の例示

D-1トレンチ1-1ピット K断層(3/3)

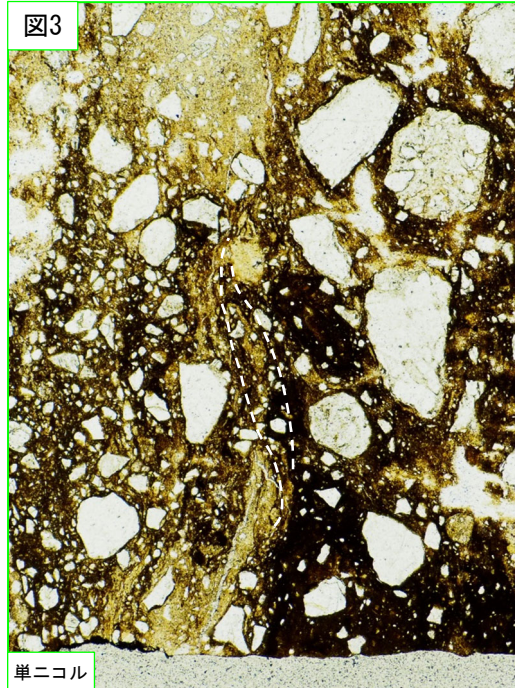
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図3)
- 岩片は少ない。(図3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図4)



単ニコル



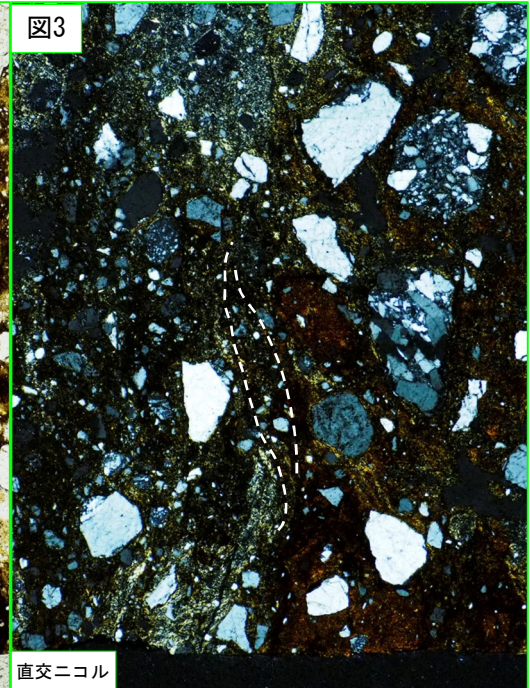
直交ニコル



単ニコル

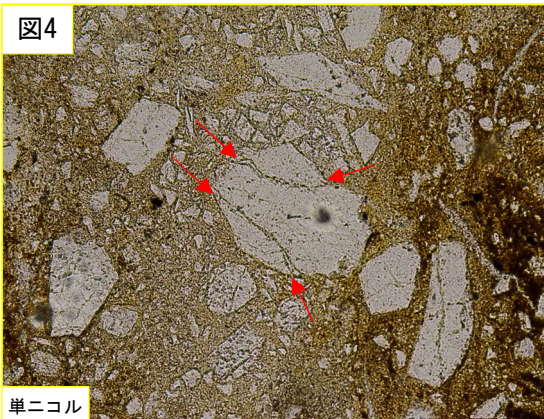
破線は粘土鉱物の配列を示す。

500 μm

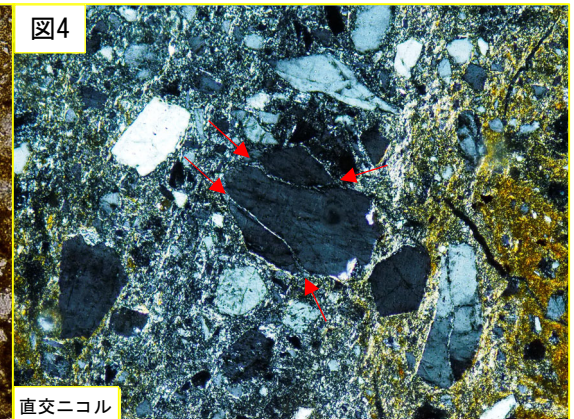


直交ニコル

500 μm



単ニコル



直交ニコル

200 μm

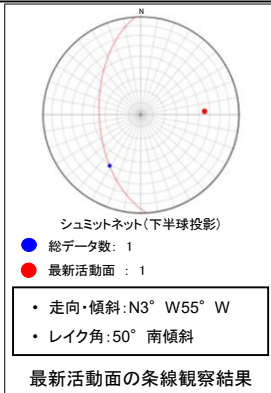
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

K断層の連続性評価について K断層における断層ガウジの特徴の例示

H24-H-14 深度4.93~7.81m K断層(1/2)

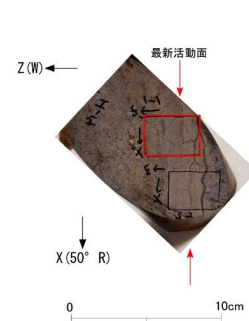
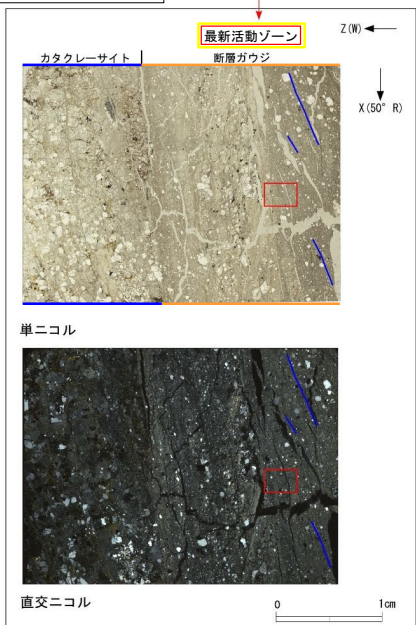
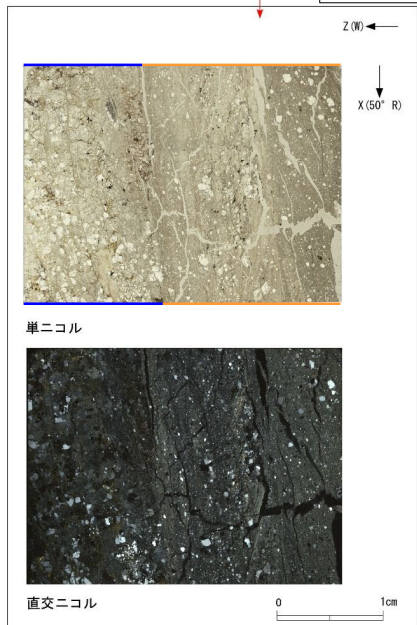
- ・H24-H-14のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度4.93m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



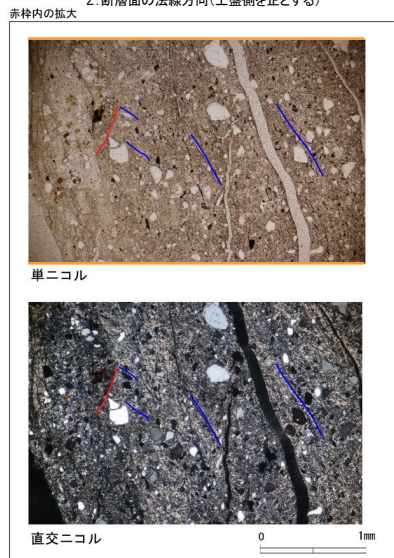
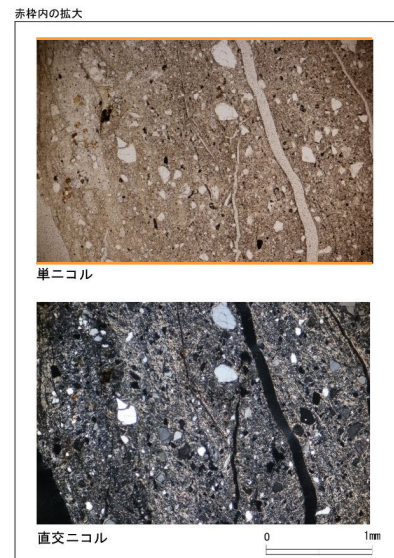
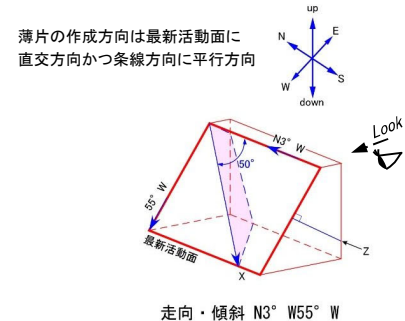
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

最新活動面



ブロックサンプル



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

K断層の連続性評価について

K断層における断層ガウジの特徴の例示

H24-H-14 深度4.93~7.81m K断層(2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2, 3)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2, 3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2, 3)

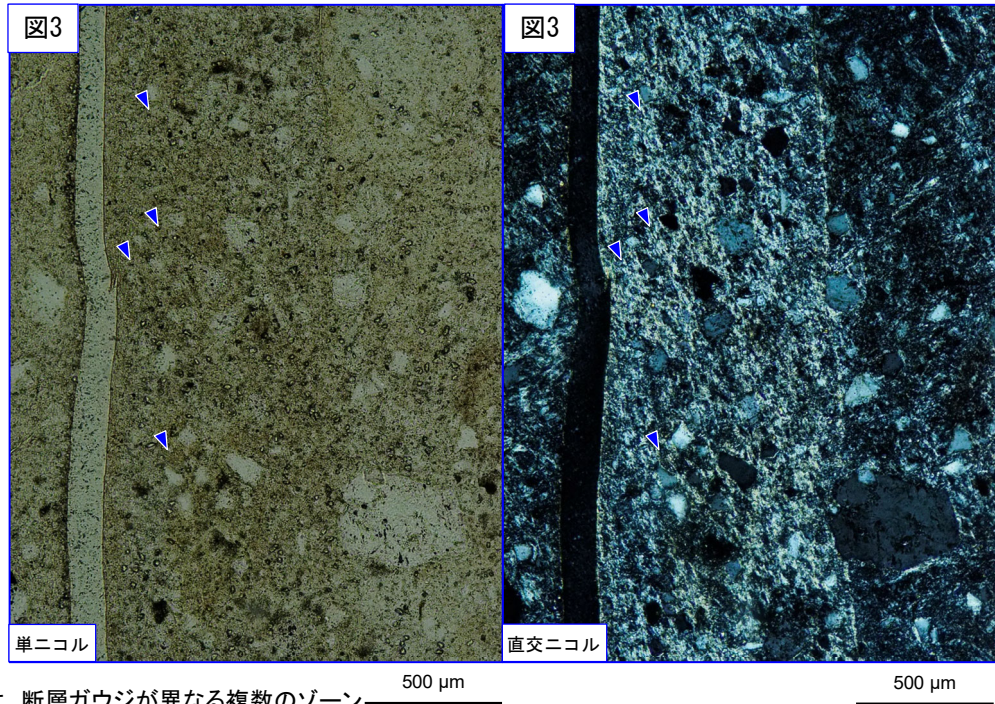
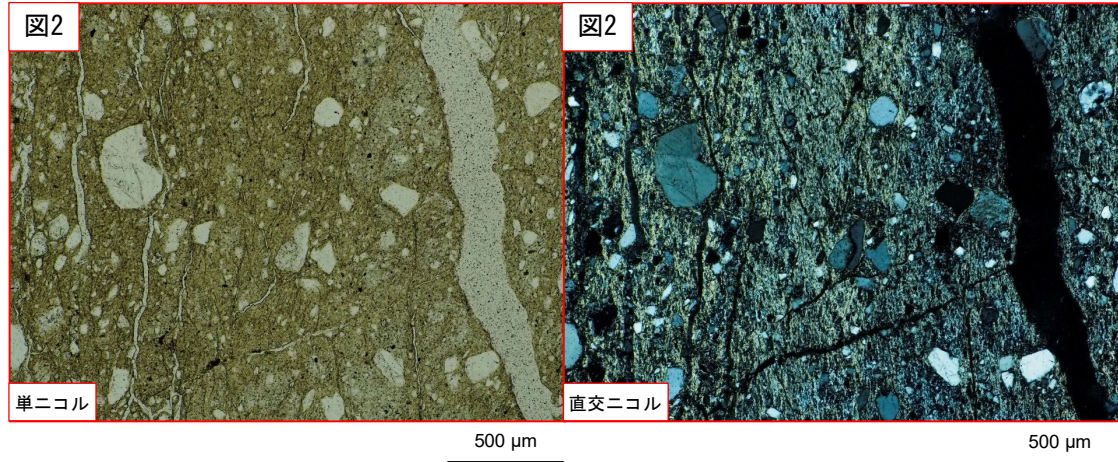
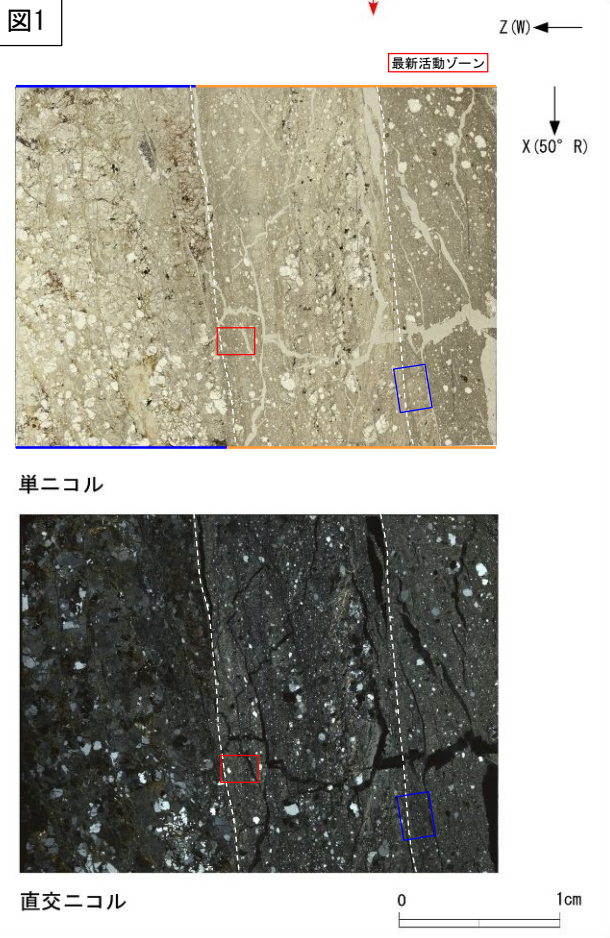
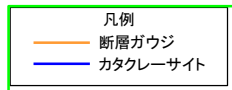
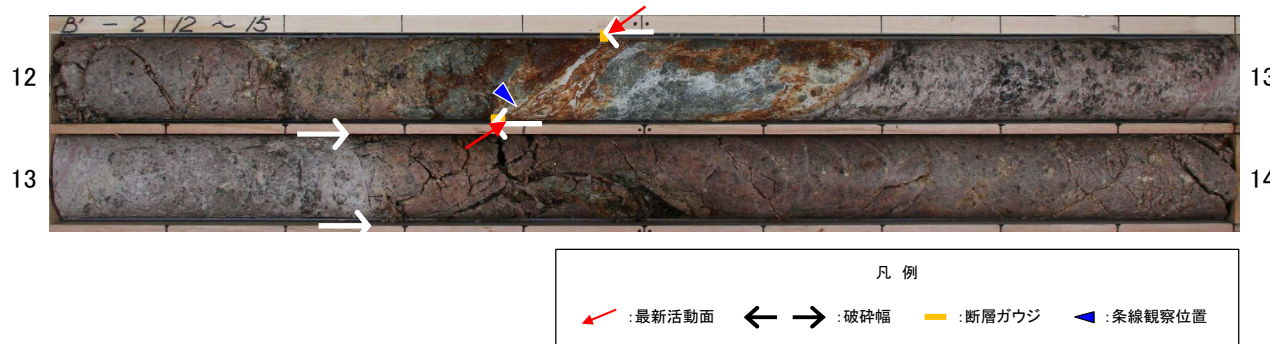


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。破線は認定したゾーンの境界を示す。

青矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

K断層(H24-B'-2孔 12.42~13.27m)の条線追加観察結果

- H24-B'-2孔のK断層の走向・傾斜(N4° E73° W)は、K断層の代表的な走向・傾斜(N-S走向, 高角度西傾斜)を示している。一方で、条線方向(20L)はK断層の代表的な条線方向(逆断層センス卓越)とは大きく異なっていることから、条線方向について既存のボーリングコアを用いて追加観察を実施した。
- 第833回審査会合までに実施した追加観察の結果、より広い範囲により明瞭な条線が認められ、その方向は70Rであった。
- 以上のことから、当該破砕部については従前の評価の通り、K断層として評価することとした。



条線観察位置拡大

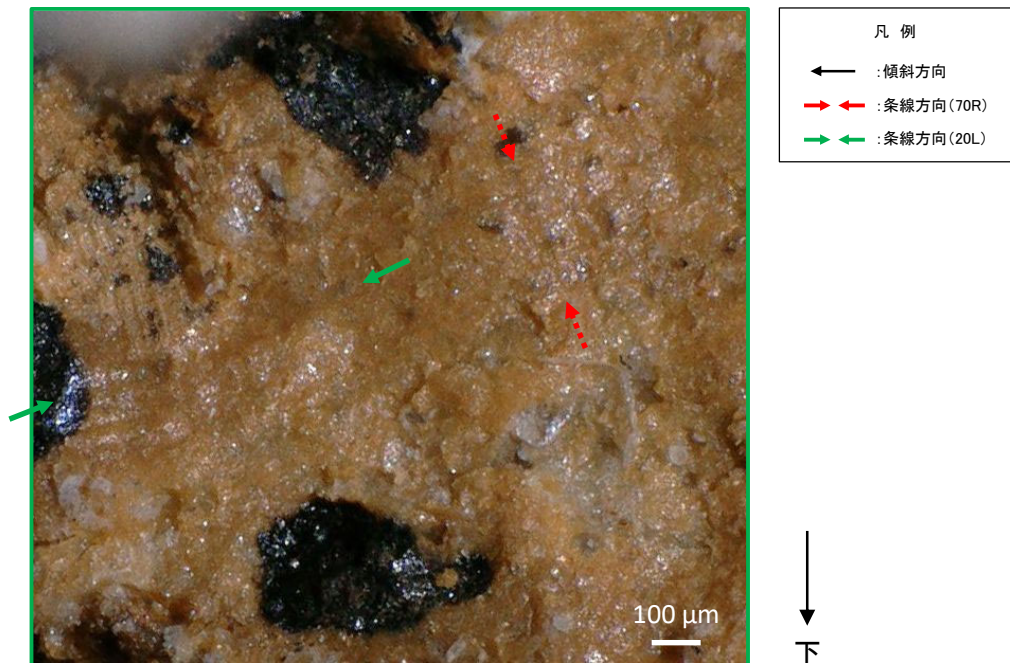


第833回審査会合までに実施した追加観察結果



赤枠内拡大(条線:70R)

従前の観察結果



緑枠内拡大(条線:20L)

K断層の性状一覧表(1/12)

- K断層については、肉眼観察により断層岩区分の評価(断層ガウジ・断層角礫)を行い、薄片観察を実施した場合でも評価に変更はない。
- 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-E-2 (傾斜65°)	18.24	19.45	NS	87W	53.0	0.8	有	非平滑	60R	逆	右	
	H24-E-1 (傾斜45°)	10.31	14.05	NS	66W	355.7	2.0	有	非平滑	55L	逆	左	
	H24-A-11 (傾斜45°)	10.20	12.76	NSW	89W	181.0	1.0	有	非平滑	80R	逆	-	

凡例

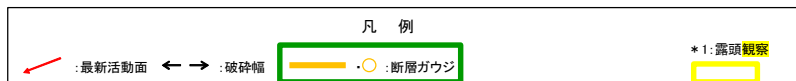
:最新活動面
 :破砕幅
 :断層ガウジ
 :*1:露頭観察

【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑:最新活動面が直線的なもの
非平滑:最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(2/12)

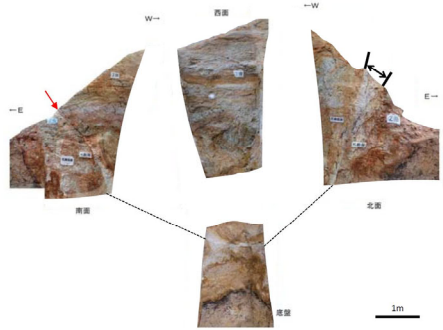
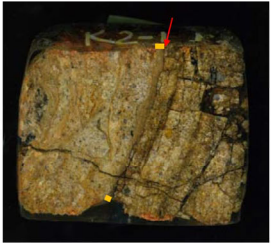


断層名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-E-2 (傾斜65°)	13.23	15.82	N21W	60W	224.3	3.0	有	非平滑	60R	逆	右	
	H24-E-1 (傾斜45°)	8.41	9.70	N21W	71W	111.7	1.0	有	非平滑	55R	逆	右	
	Lカットピット	-	-	N13W	76W	30.0	- ※	有 *1	非平滑 *1	80R	逆	-	<p>※ 断層ガウジは基盤岩と堆積物との境界付近に分布しており、幅を計測できない。</p>

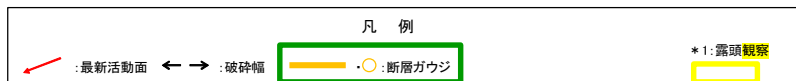


【破碎幅】
破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑: 最新活動面が直線的なもの
非平滑: 最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(3/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層カウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	2-1ビット	-	-	N1W	69W	40.0	0.4	有*1	非平滑*1	78R	逆	-	  <p>※底盤から採取</p>
	H24-B6-1 (傾斜45°)	3.00	4.00	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
	H27-F-1 (傾斜50°)	20.29	20.88	N11E	76W	51.8	0.2	有	非平滑	70L	-	-	



【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑: 最新活動面が直線的なもの
非平滑: 最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(4/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-B'-1 (傾斜45°)	7.50	10.93	N12W	89W	242.5	1.0	有	非平滑	55L	逆	左	
	H24-B'-2 (傾斜70°)	12.42	13.27	N4E	73W	52.3	0.3	有	非平滑	70R	-	-	
	H24-H-2 (傾斜70°)	5.02	5.38	N29W	66W	12.3	2.5	有	非平滑	75R	-	-	
	H24-B'-7 (鉛直)	0.62		N28W	62W	-	-	-	-	30R	-	-	
	H24-B'-3 (傾斜45°)	7.37	7.70	NS	84W	19.4	0.3	無	-	50L	逆	左	



凡例

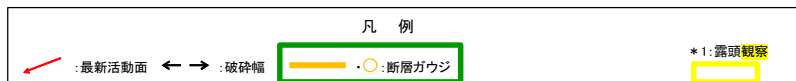
: 最新活動面
 : 破砕幅
 : 断層ガウジ
 *1: 露頭観察

【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑: 最新活動面が直線的なもの
非平滑: 最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(5/12)

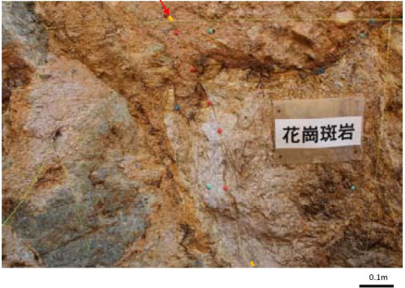

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	1-1ビット北面	-	-	N10W	60W	8.0	0.5	有*1	非平滑*1	86R	逆*1	-	
	1-1ビット南面1	-	-	N23W	69W	3.0	0.8	有*1	非平滑*1	79R	逆*1	-	

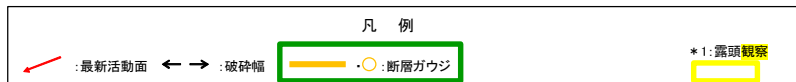


【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑: 最新活動面が直線的なもの
非平滑: 最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(6/12)




断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	1-1ビット南面2	-	-	N43W	80W	-	0.8	有*1	非平滑*1	87L	逆*1	-	
	1-1ビット南面3	-	-	N79W	52W	40.0	0.8	有*1	非平滑*1	82L	逆*1	-	

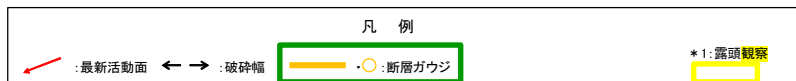


【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑: 最新活動面が直線的なもの
非平滑: 最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(7/12)

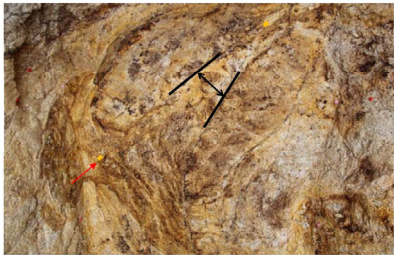
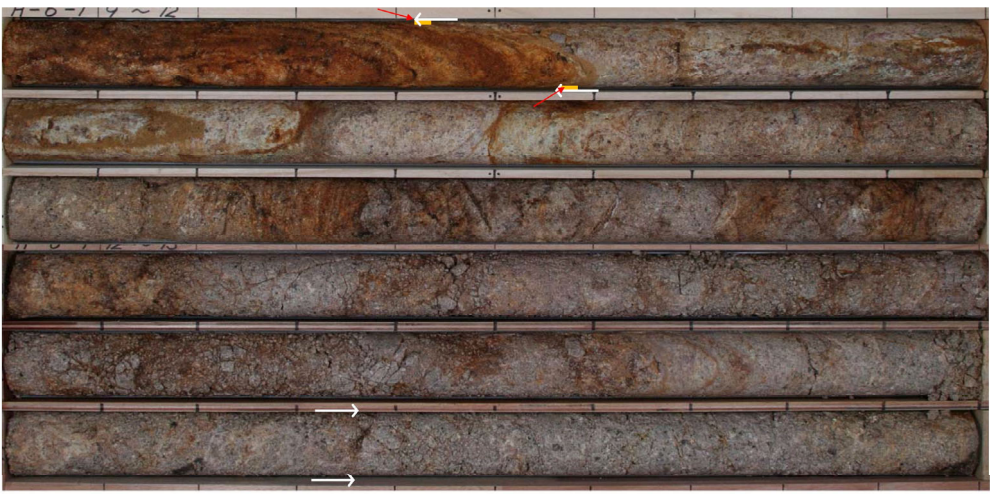

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		糸線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	1-1ビット底盤1	-	-	N66W	76S	150.0	0.6	有*1	平滑*1	70L	逆	-	 
	1-1ビット底盤2	-	-	N54E	67E	10.0	0.4	有*1	非平滑*1	25R	逆 *1	右 *1	

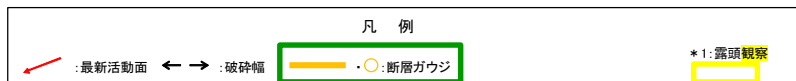


【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑:最新活動面が直線的なもの
非平滑:最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(8/12)







断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	1-1ピット 底盤3	-	-	N74W	68W	8.0	0.3	有 *1	非平滑 *1	63L	逆 *1	左 *1	
	H24-H-6-1 (傾斜45°)	9.58	14.36	N33W	38W	41.7	0.8	有	非平滑	90	逆	-	
	H24-H-3 (鉛直)	5.39	-	N36W	59SW	-	-	-	-	-	-	-	






【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑:最新活動面が直線的なもの
非平滑:最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(9/12)

断層名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		糸線 方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-H-4 (鉛直)	3.87		N48W	58W	-	-	-	-	90	-	-	3 
	H24-H-5 (鉛直)	0.24		(未測定)		-	-	-	-	-	-	-	0 
	H24-H-6 (傾斜45°)	9.92	14.69	N23W	52W	33.2	1.0	有	非平滑	75L	逆	-	9 
													10 
													11 
	H27-F-5 (傾斜50°)	11.02	11.63	N12E	81W	49.1	1.0	有	非平滑	60L	-	-	11 

凡例

 :最新活動面
  :破碎幅
  :断層ガウジ
 *1:露頭観察

【破碎幅】
破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑:最新活動面が直線的なもの
非平滑:最新活動面が湾曲するもの

K断層の性状一覧表(10/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		糸線 方向	変位センス		写 真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-H-13 (傾斜60°)	8.89	9.80	N10W	72W	52.2	2.5	有	非平滑	50R	逆	右	
	H27-G-1 (鉛直)	6.48	7.24	(未測定)		23.5	1.5	有	平滑	-	-	-	
	H27-G-2 (鉛直)	5.40	6.40	(未測定)		34.2	1.0	有	非平滑	-	-	-	
	H24-H-7-1 (鉛直)	3.73		N5E	73W	-	-	-	-	90	-	-	
	H27-G-3 (鉛直)	5.11	5.75	(未測定)		45.3	2.0	有	非平滑	-	-	-	

凡 例

: 最新活動面
 : 破砕帯
 : 断層ガウジ
 *1: 露頭観察

【破砕幅】
破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑: 最新活動面が直線的なもの
非平滑: 最新活動面が湾曲するもの